

令和元年度 事業報告書

自 平成31年4月 1日
至 令和 2年3月31日

公益財団法人中東調査会
東京都新宿区西新宿7-3-1 三光パークビル5F
電話 03-3371-5798

令和元年度事業報告書

I 法人の概況

1 設立年月日 昭和35年（1960年）10月3日 【創立：昭和31年（1956年）2月】
平成24年（2012年）4月1日公益財団法人へ移行

2 定款に定める目的

当調査会は、中東地域（北アフリカを含む）の安定した発展なくして国際政治経済環境の十全を期し得ない状況の下、エネルギー面でとりわけ脆弱な我が国の平和と繁栄、即ち国益にとり、この地域の国々との円滑な友好協力関係が死活的重要性を有していることについて国民の理解を深めるため、専門家の育成、内外研究機関及び企業との交流をふまえ、地域研究、地域関連情報の収集、専門的・実務的知見のできる限り広範な伝播、これに基づく適切な与論形成に努力し、もって我が国の平和と繁栄に寄与することを目的とする。

3 定款に定める事業

- (1) 中東地域及び域内諸国等及びこれらと深く関係する地域及び諸国等の政治、経済、社会、文化等についての研究及び調査
- (2) 前号に規定する研究及び調査に基づく資料の刊行
- (3) 現地事情紹介のための会議、講演会、セミナー、シンポジウム等、我が国における中東についての理解の増進及び知識の普及を図る啓発事業の実施及び実施協力
- (4) その他当調査会の目的を達するために必要な事業

4 所管管庁に関する事項
内閣府

5 賛助会員の状況 (令和2年3月31日現在)

種類	当期末	前期末	前期末比増減	備考
法人会員	100 法人	100 法人	0 法人	
個人会員	207 人	190 人	17 人	
(個人会員内訳)	特別個人会員：12人 普通個人会員：195人	特別個人会員：7人 普通個人会員：183人		

6 事務所

東京都新宿区西新宿7丁目3番1号 三光パークビル5階

7 役員等に関する事項

(令和2年3月31日現在)

(1) 理事、監事等

理事、監事等の常勤・非常勤の別：全員が無給・非常勤である（役員順：就任順）

役職	氏名	現職
会長	佐々木 幹夫	三菱商事(株) 特別顧問
理事長	齋木 昭隆	三菱商事(株) 取締役、外務省顧問、元外務事務次官（国家公務員出身者）
副理事長	浅子 清	前駐バハレーン大使（国家公務員出身者）
常任理事	山内 昌之	東京大学名誉教授
常任理事	細野 哲弘	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 理事長、元資源エネルギー庁長官（国家公務員出身者）
監事	吉川 英一	㈱三菱東京UFJ銀行 顧問
監事	藤崎 一郎	公益財団法人 中曽根康弘世界平和研究所（NPI）理事長、元駐米大使（国家公務員出身者）

代表理事：佐々木幹夫、齋木昭隆（2人）、業務執行理事：浅子清（1人）、理事：山内昌之、細野哲弘（2人）、監事：藤崎一郎、吉川英一（2人）

(2) 顧問 (50音順)

役職	氏名	現職
特別顧問	有馬 龍夫	元日本国政府代表・元中東和平担当特使、元駐ドイツ大使（国家公務員出身者）
顧問	池田 正己	㈱ホテルオークラ東京 代表取締役社長
顧問	石井 敬太	伊藤忠商事(株) 常務執行役員
顧問	大江 靖	アブダビ石油(株) 代表取締役社長
顧問	勝野 哲	コスモエネルギー開発(株) 代表取締役社長
顧問	加藤 広之	中部電力(株) 代表取締役社長
顧問	三井物産(株) 顧問	
顧問	木村 康	JXTGホールディングス(株) 代表取締役会長
顧問	佐久間 浩	三菱商事(株) 顧問
顧問	佐々木 伸彦	(独)日本貿易振興機構 理事長
顧問	山東 理二	千代田化工建設(株) 代表取締役社長
顧問	高原 一郎	丸紅(株) 代表取締役副社長執行役員
顧問	竹村 章敏	トヨタ自動車(株) 中東部部长
顧問	月岡 隆	出光興産(株) 代表取締役社長
顧問	寺井 一郎	㈱IHI 顧問
顧問	内藤 理	㈱日立製作所 執行役常務
顧問	中村 邦晴	住友商事(株) 取締役会長
顧問	中山 真一	サウディ石油化学(株) 取締役社長
顧問	服部 真二	セイコーホールディングス(株) 代表取締役会長兼グループCEO
顧問	宮家 邦彦	㈱外交政策研究所代表

以上、19人

(3) 参与 (50音順)

役職	氏名	現職
参与	浦部 和好	元内閣官房副長官補(元駐エジプト大使、元外務省官房長)、元中東調査会評議員
参与	恩田 宗	元駐サウジアラビア大使(一般社団法人総合研究フォーラム業務執行理事)
参与	鏡 武	元駐シリア大使、元中東調査会副会長
参与	加藤 博	一橋大学名誉教授
参与	川崎 弘	一般社団法人流動化・証券化協議会相談役(元経済企画庁調整局長)
参与	黒川 剛	元駐クウェイト大使
参与	小杉 泰	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授
参与	塩尻 宏	元駐リビア大使、元中東調査会副理事長
参与	内藤 正典	同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 教授
参与	八尾師 誠	東京外国語大学名誉教授
参与	目黒 孝敏	元駐バハレーン大使
参与	守村 卓	元中東調査会監事、㈱三菱UFJ銀行 副頭取

以上、12人

(参考) 【定款第29条】

1. 理事 3名以上10名以内、 監事 1名以上2名以内

【定款第33条】

1. 代表理事2名のうち1名を会長、他の代表理事を理事長に選任する。

2. 3名以内の業務執行理事のうち1名を副理事長とすることができる。理事のうち1名を副会長、若干名を常任理事とすることができる。

【定款第41条】

1. 当調査会に、名誉顧問若干名、顧問40名以内及び参与30名以内を置くことができる。

2. 名誉顧問、顧問及び参与は、理事会の承認を得た上で理事長が委嘱し、直近の評議員会に報告するものとする。名誉顧問、顧問及び参与の資格、任期、解任については、理事会が定める。

3. 名誉顧問、顧問及び参与は無報酬とする。ただし、その職務を行うために要する費用を支払うことができる。

(4) 評議員

評議員の常勤・非常勤の別：全員が無給・非常勤である (50音順)

	氏名	現職
評議員	北村 文夫	岩谷直治記念財団評議員会長、元読売新聞編集委員
評議員	須藤 隆也	公益財団法人日本国際問題研究所 軍縮・不拡散促進センターディレクター、元駐エジプト大使(国家公務員出身者)
評議員	関場 誓子	聖心女子大学名誉教授
評議員	高島 肇久	海外通信・放送・郵便事業支援機構会長
評議員	渡辺 喜宏	事業創造大学院大学教授、パーウイン・レイトン・ベイズナー法律事務所顧問

以上、5人

(参考) 【定款第14条】

評議員 3名以上10名以内

8 職員に関する事項 (令和2年3月31日現在)

職員数 (人)	前期末比増減 (人)	平均年齢	平均勤続年数	備考
男子	4	39.0 歳	4年	
女子	4	45.0 歳	9.5年	
合計 又は平均	8	42.0 歳	7.7年	

(注) 男子職員のうち1人は週4日勤務である

II 事業の状況

1 事業の実施状況

別紙「事業の実施状況」参照

2 役員会に関する事項

名称	開催年月日	決議事項等
定時理事会	令和元年6月3日	平成30年度事業報告書(案)
		平成30年度決算報告書(案)
		監事の補充選任に関し評議員会へ監事候補者名簿を提出する件(案)
		評議員選定委員の辞任・選任(案)
		評議員の補充選任に関し「評議員選定委員会」へ評議員候補者名簿を提出する件(案)
		顧問の辞任・選任(案)
定時評議員会	令和元年6月21日	議長を選出
		議事録署名人の選出
		平成30年度事業報告及び決算書類の承認
第1回臨時理事会 (書面決議)	令和元年6月26日	監事の辞任・選任
		顧問の選任
第2回臨時理事会 (書面決議)	令和元年11月13日	令和元年度第1回臨時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項
第3回臨時理事会	令和元年12月20日	令和2年度事業計画書(案) 令和2年度収支予算書(案) 大野客員研究員の参与就任(案)
第1回臨時評議員会	令和元年12月20日	議長を選出
		議事録署名人の選出
		令和2年度事業計画書(案)
		令和2年度収支予算書(案)
第4回臨時理事会 (書面決議)	令和2年3月6日	受託規程の一部改正

3 正味財産の状況並びに財産の状況の推移

単位：円

	前々期 平成30年3月期	前期 平成31年3月期	当期 令和2年3月期	備考
資産合計	77,686,511	65,401,200	65,677,738	
負債合計	27,881,990	13,135,882	10,078,672	
正味財産	49,804,521	52,265,318	55,599,066	

平成21年度から、「新々公益法人会計基準」（内閣府公益認定等委員会が平成20年4月11日に公表した『公益法人会計基準』の運用指針）を採用している。

Ⅲ 法人の課題

当法人の対処すべき課題

(1) 公益財団法人としての運営方針

当調査会は、平成24年4月1日付にて公益財団法人へ移行した。公益財団法人としての責務を果し、持続性を確保するために、当調査会への社会的需要に応えつつ、財政基盤を確固たるものとするのが、継続的な課題になる。当調査会はこの課題に対処すべく、調査研究・会員サービス・一般向けの情報発信という事業活動の一層の充実に取り組みたい。また近年の中東における不安定化や治安の悪化を背景に、邦人及び邦人企業の安全を強化するため、政府の対応にも協力しつつ、調査・分析を強化する。

(2) 質の高い事業の推進

当調査会が充実した活動を行うためには、官公庁、企業、研究教育機関、および社会全体の中でその存在感を高めなくてはならない。そのためには、より質の高い広報活動の推進が求められる。また当調査会のこれまでの研究調査を踏まえ、法人会員・個人会員の関心に応じていくとともに、一般の人やメディアのニーズに的確に対応する情報発信を行う。従来の出版物、電子メール、ホームページの充実に加え、SNS（Facebook、Twitter）の新しい発信手段を活用することで、情報発信・広報体制の強化を図る。同時に、そのための基盤として調査・研究活動の体制を効率化し知的生産活動を拡充する。

(3) 活動基盤の充実

当調査会が今後一層の質の高い事業展開を行っていくためには、その活動の財政的基盤を強化することが不可欠である。賛助会員の拡大、受託研究調査事業の開拓をはじめ会員および潜在的顧客層の関心の高いセミナー、フォーラムの開催、中東に関する研究への支援のさらなる拡大を図る。

別紙：「事業の実施状況」

以上

【公益目的事業その1】 中東に関する研究・調査事業

ア 政治・経済・社会・文化等についての研究および調査 (中東資料センター)

中東の動向についての情報を現地の異なる政治的立場に立つメディア（新聞、テレビ、インターネット・サイト）、欧米の紙誌・通信社、日本の報道機関等を通じてより網羅的に収集した。

1. 「日誌データベース」の更新

「日誌データベース」（中東地域の国別主要動向）をはじめとする中東各国に関する情報を幅広く収集・整理したデータベースの更新を行った。令和元年度入力データ数は7,314件（令和元年度末のデータ総数は平成5年以降、21万1,034件）。令和元年の各国動向は『別冊・中東研究：中東各国動向』の刊行にあたって活用した。

2. 「中東要人データベース」の更新

中東諸国の政治家を中心とした要人動向を整理し、昭和50年代末からデータベース化している。令和元年度末までにデータを収集した要人総数は2万4,094人。

3. 中東諸国外交官等からの情報収集

外務省等の関係省庁・機関や在京の中東諸国大使館の外交官、中東に係るビジネスマンらから情報を収集した。その一環として、来日した外国諸機関関係者、政治家、研究者らとの会合を行い、中東情勢に関する情報収集・分析に努めた。また海外からの訪問者に対して日本の立場や政策について説明した。

(1) 平成31年4月10日（水）10:00-11:00 於）三菱商事

セイエド・カーゼム・サッジャードプール（イラン外務省・国際政治研究所所長）、サイード・ロトフィアン（テヘラン大学教授）、イラン大使館より2名
佐々木 幹夫（中東調査会会長）、齋木 昭隆（中東調査会理事長）、近藤 百世（中東調査会研究員）

(2) 令和元年7月22日（月）11:00-12:00 於）中東調査会

イサム・チャラビ（三菱商事顧問・元イラク石油相）、真貝 昌和（三菱商事バスラ事務所所長）
高岡 豊（中東調査会主席研究員）

(3) 令和元年9月4日（水）11:00-12:00 於）中東調査会

アアラージ・スリマーン（アルジェ第3大学政治・国際関係学部副学長）
浅子 清（中東調査会副理事長）、金谷 美紗（中東調査会研究員）、青木 健太（中東調査会研究員）、高橋 雅英（中東調査会協力研究員）

(4) 令和元年9月18日（火）14:00-15:00 於）中東調査会

ハビーブ・バダウィー（レバノン大学講師）
浅子 清（中東調査会副理事長）、高岡 豊（中東調査会主席研究員）、高尾 賢一郎（中東調査会研究員）、青木 健太（中東調査会研究員）、

(5) 令和元年11月12日（火）13:30-15:00 於）中東調査会

ムラット・イェトキン（ヒュリエット・デイリー紙元編集長）
高岡 豊（中東調査会主席研究員）、金子 真夕（中東調査会研究員）、金谷 美紗（中東調査

会 研究員)、高尾 賢一郎 (中東調査会研究員)、青木 健太 (中東調査会研究員)、西館 康平 (中東調査会研究員)

(6) 令和元年 12 月 10 日 (火) 16:30-17:30 於) 中東調査会
イルヌル・チェビッキ (トルコ大統領首席補佐官兼大統領府安全保障・外交政策委員会委員)
高岡 豊 (中東調査会主席研究員)、金子 真夕 (中東調査会研究員)、高尾 賢一郎 (中東調査会研究員)、青木 健太 (中東調査会研究員)、西館 康平 (中東調査会研究員)

(7) 令和元年 12 月 23 日 (月) 15:00-16:00 於) 中東調査会
ジャーシム・フセイン博士 (バハレーン研究者・元国会議員)
浅子 清 (中東調査会副理事長)、青木 健太 (中東調査会研究員)

(8) 令和 2 年 1 月 27 日 (月) 14:30-15:30 於) 外務省
イスラエル・パレスチナ合同青年招聘団 (イスラエル側 5 名、パレスチナ側 5 名)
浅子 清 (中東調査会副理事長)、高岡 豊 (中東調査会主席研究員)、西館 康平 (中東調査会研究員)

(9) 令和 2 年 2 月 26 日 (水) 10:30-11:15 於) 中東調査会
ロバート・ビークロフト (多国籍軍監視団 (MFO) 事務局長)
浅子 清 (中東調査会副理事長)、金谷 美紗 (中東調査会研究員)

4. 関係研究機関との連携

当調査会研究員は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所・中東研究センター、石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC)、国際協力機構 (JICA)、JETRO アジア経済研究所、同志社大学、武蔵野大学国際総合研究所、また科学研究費助成事業基盤 A「東アラブ地域の非公的政治主体による国家機能の補完・篡奪に関する研究」、科学研究費助成事業基盤 B「中東・ヨーロッパ諸国間の国際政策協調と移民／難民の移動に関する研究」、科学研究費助成事業基盤 B「現代ムスリム社会における風紀・暴力・統治に関する地域横断的研究」、科学研究費助成事業基盤 B「シリア内戦の比較研究—レバノン・旧ユーゴスラビアの内戦と戦後和解」、科学研究費助成事業基盤 B「民主化プロセスにおける司法府の役割：中東イスラーム諸国の比較研究」、科学研究費助成事業基盤 C「中東地域秩序形成における域外大国と域内主要国の競合とその相互作用に関する研究」などの研究・調査事業に参加して、連携の強化と研究内容の向上に努めた。

イ 受託調査

政府、民間より研究・調査プロジェクトの委託を受け実施している。調査結果は、委託者の意向により、そのままの形では公表できないものもあるが、調査の過程で得られた知見や人脈は当調査会の講演会や刊行物で活用した。

1. 情報収集・分析業務

「テロ組織及びテロリスト情報の収集・分析業務」(委託者：外務省)
「テロ組織の機関誌の分析業務」(委託者：外務省)

2. 横浜市立大学「令和元年度後期・エクステンション講座」への講師派遣

テーマ：「現代の中東・北アフリカ地域を理解しよう」
定員：50 名 於) 横浜市立大学 金沢八景キャンパス

第 1 回 令和元年 9 月 30 日 (月) 14:30-16:00

講 師：山崎 和美 (横浜市立大学准教授・中東調査会客員研究員)

演 題：「イスラームの歴史と宗派の起源」

(当調査会は、第2回以降の講座を受託した)

第2回 令和元年10月7日(木) 14:30-16:00

講師：高岡 豊(中東調査会主席研究員)

演題：「シリア紛争の推移と今後の課題」

第3回 令和元年10月24日(木) 14:30-16:00

講師：金谷 美紗(中東調査会研究員)

演題：「アラブの春」後：北アフリカ諸国における秩序回復の試み」

第4回 令和元年10月28日(月) 14:30-16:00

講師：高尾 賢一郎(中東調査会研究員)

演題：「サウジアラビアが迎える変化とその展望」

第5回 令和元年10月31日(木) 14:30-16:00

講師：金子 真夕(中東調査会研究員)

演題：「強権化が進むトルコ：エルドアンは何を目指すのか」

3. さいたま市与野本町公民館への講師派遣 令和元年5月21日(火) 10:00-12:00

講師：金子 真夕(中東調査会研究員)

演題「中東でなぜ争いが絶えないか?～トルコの視点から考える～」

4. 琉球大学への講師派遣 令和元年6月12日(水) 10:20-11:50

講師：金子 真夕(中東調査会研究員)

演題「トルコとEU」

5. 沖縄国際大学への講師派遣 令和元年6月12日(水) 10:40-12:10

講師：近藤 百世(中東調査会研究員)

演題「イランと米国、イランと日本：中東を理解するために」

6. JICA 関西への講師派遣 令和元年6月24日(月) 18:30-20:00

講師：高岡 豊(中東調査会主席研究員)

演題「中東の今を考える～シリア・ヨルダン報告」

ウ メディアを通じての中東情勢解説

政治情勢、治安情勢や、中東諸国からの要人來訪などの機会に、報道機関や様々な情報発信媒体からの照会を受けた。湾岸諸国の君主制(5月)、ホルムズ海峡情勢(6・7月)、アフガニスタン情勢(7・9月)、中村医師殺害事件(12月)、サウジアラムコ新規公開株(12月)、ソレイマニー革命防衛隊ゴドス部隊司令官殺害事件(1月)、米・ターリバーン和平合意(2・3月)について主要な新聞などで解説した。

また、各々の専門分野に関して新聞・雑誌等に執筆を行った。寄稿先は、ロイター通信、毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、日経新聞、東京新聞、外交、月刊 経団連、公研、MUFG BizBuddy、ミネルヴァ書房、Yahoo!ニュース、など。

エ 一般からの照会に対する回答

中東諸国の政治・社会情勢などについて一般からの電話等による照会に対応して背景説明や解説をすると同時に、中東調査会のホームページ(<http://www.meij.or.jp/>)で諸情勢の経緯や背景など詳細に情報を発信した。

令和元年度のサイト訪問者数は12万8,912人（平成30年度は15万4,567人）と減少したものの、ページ閲覧数は44万1,165回（平成30年度は32万4,237回）へと大幅に増加した。また昨年度比で固定ユーザーが35%増加した。

中東の知識普及のため、大学（早稲田大学エクステンションセンター、立命館大学、東京大学中東地域研究センター、明治大学）で講義・講演を行った。

また非常勤講師として東京外国語大学、青山学院大学、お茶の水女子大学、津田塾大学、学習院女子大学で教鞭を執った。

【公益目的事業その2】 出版事業

ア 『中東研究』

昭和33年に創刊された中東に関する研究論文、時事解説、資料等を掲載している中東総合専門誌（5月、9月、1月に発刊している）。

第535号（2019年度 Vol. I）（700部発行）

【特集：中東におけるメディアと政治】

中東における報道規制

——近年の動向と統制方法の多様化に着目して

千葉 悠志

中東におけるインターネット・コントロールをめぐる状況の変化と今後の展望

山本 達也

アル=ジャジーラとアル=アラビーヤ 対極的な報道をどう見るか

——ハーショグジー氏殺害事件を例に

吉村 寿郎

イランにおけるメディアと政治

——国家による情報統制と政治勢力による道具化

松永 泰行

トルコにおけるメディアと政治

——1990年代から公正発展党政権下におけるメディアをめぐる構造的問題

阿部 るり

【最近の動向】

シーシー体制の特徴に関する予備的考察

——軍による統治、政党の弱体化、司法の従属化

金谷 美紗

【書評】

ナディア・ムラド、ジェナ・クラジェスキ 著 吉井 智津 訳

『The Last Girl——イスラーム国に囚われ、闘い続ける女性の物語』

小早川 敏彦

山岸 智子 編著

『現代イランの社会と政治——つながる人びとと国家の挑戦』

近藤 百世

第536号（2019年度 Vol. II）（700部発行）

【大使の見たままに】

オマーンからイランへ

齊藤 貢

【特集：中東「再生」と安定の試み】

エジプトにおけるムスリム同胞団の危機と生存戦略

横田 貴之

公正発展党の内政における政権維持の手法（2002年～2019年）

今井 宏平

ポスト・ブーテフリカ体制期の混乱——反ブーテフリカ抗議デモの長期化と軍部の台頭

高橋 雅英

シリアの復興の現状と課題

高岡 豊

サウジアラビアが目指すイスラーム言説を通じた秩序形成

——サラフィー主義、「中道・穏健」、「1979年以前」

高尾 賢一郎

【最近の動向】

自称される右派、蔑称としての左派——2019年4月のイスラエル国会選挙

浜中 新吾

JCPOAの課題——イランを巡る現状に対する考察

近藤 百世

【書評】

川上 泰徳 著

『シャティーラの記憶——パレスチナ難民キャンプの70年』

小早川 敏彦

高岡 豊／溝淵 正季 編著

『「アラブの春」以後のイスラーム主義運動』

鏡 武

第 537 号 (2019 年度 Vol.Ⅲ) (700 部発行)

【大使の見たままに】

レバノン勤務の所感と最近のレバノン情勢

山口 又宏

【特集: 中国の中東進出】

中国の外交政策におけるイランの位置づけ

三船 恵美

中東地域への中国の軍事的関与

八塚 正晃

イスラエルの対中国政策

三上 陽一

トルコの対中国経済関係——貿易不均衡と投資不足

間 寧

エジプト・中国間の経済・軍事協力の進展

金谷 美紗

サウジアラビア・中国関係の推移と様態——「サウジ・ビジョン2030」と「一帯一路」

高尾 賢一郎

【最近の動向】

イランにおける2019年抗議デモの要因と特徴——拡がる経済格差とその含意

青木 健太

【書評】

中村 覚 監修・間 寧 編著

『トルコ』

金子 真夕

『別冊・中東研究データ編』

平成22年度より、これまでのデータ編（紙媒体）を『別冊・中東研究』としてデジタル媒体で発刊している。

『別冊・中東研究：中東各国動向（2019）』（CD-ROM）（令和2年3月刊行）

2019年かわら版編、日誌データ編

<湾岸・アラビア半島地域>

アラブ首長国連邦（UAE）

イエメン

イラク

イラン

オマーン

カタール

クウェイト

サウジアラビア

バハレーン

<東地中海地域>

イスラエル

シリア

トルコ

パレスチナ

ヨルダン

レバノン

<北アフリカ地域>

アルジェリア

エジプト

チュニジア

モロッコ

リビア

<その他>

アフガニスタン

イスラーム過激派

<特別書下ろし：「自由で開かれたインド太平洋」と中東>

・「自由で開かれたインド太平洋」におけるインフラ開発と秩序形成

——チャーバハール港とグワーダル港を中心に

青木 健太

・Connectivity at Core :

India's West Asia policy, China and the Prospects for India-Japan Cooperation

Jagannath P. Panda

・イランをめぐる現状とチャーバハール港開発

鈴木 均

・中国の「一帯一路」とグワーダル港開発

笠井 亮平

・Japan, India and the Chabahar Connect in the Indo-Pacific

Titli Basu

イ ニューズレター

中東各国に関する時事問題や分析記事を、ニュースレター「中東かわら版」として発行した。発行される各号を当調査会 HP に掲載して公開し、一般向けの中東に関する情報配信に努めた。令和元年度発行総数は 201 号（平成 30 年度発行総数は 118 号）。なお、イスラーム過激派についての情報発信は、平成 30 年度から会員サービス向上のため、会員専用の「イスラーム過激派モニター」を中心とする発信形式に改めた。

国別の代表的な記事（平成 31 年 4 月 1 日ー令和 2 年 3 月 31 日）

★アフガニスタン

- ・令和元年 12 月 9 日 ターリバーンが中村医師殺害事件への関与を改めて否定
- ・令和元年 12 月 25 日 大統領選挙が過去最低の投票率を記録
- ・令和 2 年 3 月 2 日 米国・ターリバーン間の和平取引合意と不安要素

★UAE（アラブ首長国連邦）

- ・令和元年 5 月 13 日 フジャイラ沖で商船・タンカーに「破壊行為」
- ・令和元年 10 月 16 日 プーチン露大統領の来訪
- ・令和元年 11 月 13 日 連邦国民評議会と男女比問題

★アルジェリア

- ・平成 31 年 4 月 4 日 ブーテフリカ大統領の辞任
- ・令和元年 12 月 17 日 大統領選挙でアブドゥルマジード・タブーンが勝利
- ・令和元年 12 月 24 日 ガーイド・サーリフ副国防相兼参謀総長が死去

★イエメン

- ・令和元年 8 月 13 日 南部移行評議会がアデンを制圧
- ・令和元年 9 月 17 日 サウジの石油施設攻撃に関する動き
- ・令和 2 年 3 月 26 日 立ち遅れる新型コロナウイルス対策

★イスラエル

- ・令和元年 9 月 26 日 選挙の最終結果と組閣の動き
- ・令和 2 年 1 月 29 日 トランプ大統領が中東和平案を公表
- ・令和 2 年 3 月 3 日 再々選挙の暫定結果

★イラク

- ・令和元年 5 月 29 日 クルド地区の新大統領選出
- ・令和元年 12 月 3 日 アブドゥルマフディー首相が辞任
- ・令和 2 年 1 月 8 日 イランの革命防衛隊がアメ

リカ軍基地をミサイル攻撃

★イラン

- ・令和元年 6 月 14 日 ホルムズ海峡付近でのタンカー攻撃事件
- ・令和元年 11 月 18 日 ガソリン価格値上げを受けた抗議活動の発生
- ・令和 2 年 1 月 6 日 ソレイマニー革命防衛隊ゴドス部隊司令官殺害とその波紋

★エジプト

- ・令和元年 9 月 24 日 都市部で反政府デモ
- ・令和元年 11 月 21 日 シーシー大統領息子を総合諜報局副長官から解任か

★オマーン

- ・令和元年 5 月 7 日 「オマーン・ビジョン 2040」の進捗
- ・令和元年 10 月 29 日 第 9 期諮問評議会選挙の実施
- ・令和 2 年 1 月 14 日 カーブース国王の崩御とハイサム新国王の即位

★カタール

- ・平成 31 年 4 月 17 日 第 6 期中央地方評議会議員選挙の実施
- ・令和元年 7 月 10 日 タミーム首長の訪米
- ・令和元年 11 月 27 日 エルドアン大統領のカタール訪問

★クウェイト

- ・令和元年 8 月 8 日 国外追放した同胞団細胞による爆破事件
- ・令和元年 12 月 27 日 サバーフ・ハーリド・サバーフ新内閣の発足

★サウジアラビア

- ・令和元年 6 月 14 日 フーシー派によるミサイル攻撃
- ・令和元年 7 月 23 日 16 年ぶりの米軍駐留
- ・令和元年 12 月 6 日 サウジアラムコが IPO の売価を発表

★シリア

- ・令和元年 10 月 10 日 トルコ軍のシリア侵攻

- ・令和元年10月15日 政府軍が北部に展開
- ・令和2年3月6日 イドリブ県についてロシアとトルコが停戦合意

★チュニジア

- ・令和元年7月26日 シブシー大統領の死去、大統領選挙の前倒し
- ・令和元年10月11日 議会選挙の結果（暫定）
- ・令和元年10月18日 大統領選挙決選投票でカイス・サイードが勝利

★トルコ

- ・平成31年4月2日 統一地方選挙の実施
- ・令和元年6月25日 イスタンブール市長やりなおし選挙の実施
- ・令和元年10月10日 シリア北部での対クルド軍事作戦を開始

★バハレーン

- ・平成31年4月18日 139名に「テロ」への関与で有罪判決
- ・令和元年7月18日 米国提案の海上安全保障会議を主催か
- ・令和元年8月13日 有志連合結成案をめぐるイランとの批判合戦

★パレスチナ

- ・令和元年6月24日 中東和平案の経済面の発表
- ・令和元年11月19日 アメリカがイスラエルの入植地への立場を転換
- ・令和2年1月30日 中東和平案への反応、翻弄される「パレスチナ」というアジェンダ

★モロッコ

- ・令和元年10月21日 内閣改造（第3次ウスマーニー内閣）

★ヨルダン

- ・令和元年5月13日 内閣改造（第3次ラッザーズ内閣）
- ・令和元年11月12日 内閣改造（第4次ラッザーズ内閣）
- ・令和元年11月13日 租借地の利用期限が切れる

★リビア

- ・令和元年12月27日 軍事・海洋境界合意による東地中海諸国の対立

★レバノン

- ・令和元年10月21日 反政府抗議デモが拡大
- ・令和元年12月17日 抗議行動が原因で歳入が激減
- ・令和2年3月9日 債務不履行を宣言

★イスラーム過激派モニター

- ・平成31年4月 令和元年2号 「イスラーム国」がスリランカでの爆破事件について犯行声明を発表する
- ・令和元年11月 令和元年9号 「イスラーム国」が新たな「カリフ」と公式報道官を選任
- ・令和元年12月 令和元年13号 「イスラーム国」は中村医師殺害事件に反応せず
(全タイトルは23頁参照)

ウ 「中東・北アフリカ年鑑」

利用効率を高めるため平成24年度から『別冊・中東研究データ編』と合併させ『別冊・中東研究：中東各国動向』として発刊している。この刊行形態を継続する。

ア 中東情勢講演会等

中東地域の認識の深化や基本的知識を広めることを目的に、令和元年度は12回開催した。案内は、会員のみならず中東に関心を持つ一般の登録者に電子メールで案内するほか、中東調査会のホームページでも広く参加者を募っている。

令和元年度の電子メールによる案内先は、法人会員1,751人、個人会員224人、当調査会が開催する講演会に関する情報提供を希望された一般の方1,459人。

令和元年度の参加申込者総数は1,068人（49人/回）、うち一般の申込者は271人（12人/回）。各回の参加者における会員・一般の割合は下記表を参照のこと。

1. 令和元年6月5日（水）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」
講 師：ネージー・ジャッルール（チュニジア戦略学研究所所長）
演 題：「最近の中東・マグレブ情勢——チュニジアの視点から」
2. 令和元年6月7日（金）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」
シンポジウム「緊迫する湾岸情勢とその展望：2018年以降のイラン・サウジアラビア関係と米国の中東政策」
講 師①：渡部 恒雄（笹川平和財団上席研究員）
演 題①：「トランプに中東戦略はあるのか？」

講 師②：高尾 賢一郎（中東調査会研究員）
演 題②：「サウジアラビアの行動原理と域内安全保障の青写真」

講 師③：近藤 百世（中東調査会研究員）
演 題③：「イランの現況と展望」
3. 令和元年7月1日（月）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」
講 師：岡 浩（外務省中東アフリカ局長）
演 題：「最近の中東情勢と日本の外交」
4. 令和元年7月3日（水）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」
講 師：大塚 聖一（駐カタール大使）
演 題：「カタール外交から見た中東情勢」
5. 令和元年7月19日（金）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」
講 師：松永 泰行（東京外国語大学教授）
演 題：「米・イラン対立—その背景、構造、および今後の見通し」
6. 令和元年11月6日（水）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」
講 師：河原 一貴（外務省中東アフリカ局中東第一課長）
演 題：「最近の中東情勢—中東和平、シリア、トルコ、エジプトを中心に—」
7. 令和元年11月11日（月）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」
講 師：横田 貴之（明治大学情報コミュニケーション学部准教授）
演 題：「エジプト現状分析—スィーサー政権下の内政を中心に」
8. 中東特別講演会
令和2年1月9日（木）14:00-15:30 於）法曹会館「高砂の間」
講 師：山本 忠通（国際連合事務総長特別代表 兼 国連アフガニスタン支援ミッション代表）

演 題：「アフガニスタン情勢の展開と国連」

9. 令和2年1月20日（月）15:30-17:30 於）日本記者クラブ「会見場」
シンポジウム「「自由で開かれたインド太平洋」と中東—港湾開発、連結性、地域秩序への含意—」

講 師①：ジャガナート・パンダ（インド国防問題研究所（IDSA）東アジア研究センター長）

演 題①：「中核としての連結性：インドの対西アジア政策、中国、及び日印協力」

講 師②：鈴木 均（アジア経済研究所上席主任研究員）

演 題②：「チャーバハール港開発と米国・イラン関係」

講 師③：笠井 亮平（岐阜女子大学南アジア研究センター特別研究員）

演 題③：「中国の一带一路とグワダール港開発」

講 師④：ティトリ・バス（インド国防問題研究所（IDSA）アソシエート・フェロー）

演 題④：「「インド太平洋」時代の中東における日印インフラ協力」

討論者：ファルハード・タギーザーデ・ヘサーリー（東海大学准教授）、青木 健太（中東調査会研究員）

モデレーター：青木 健太（中東調査会研究員）

10. 令和2年1月31日（金）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」

講 師：八塚 正晃（防衛省防衛研究所研究員）

演 題：「中国が中東に進出する背景：軍事的関与を中心に」

11. 令和2年2月3日（月）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」

講 師：宮島 昭夫（駐トルコ共和国特命全権大使）

演 題：「最近のトルコ情勢」

12. 令和2年2月7日（金）14:30-16:00 於）日本記者クラブ「会見場」

講 師：辻 昭弘（外務省中東アフリカ局中東第二課長）

演 題：「最近の中東情勢～イラン情勢と総理の中東訪問を中心に～」

イ 中東連続講演会

研究員発表会及び各国の駐日大使によるシリーズ講演会を、令和元年度は5回開催した。会員及び情報配信登録者など幅広く案内を行い、合計で192名の参加があった。

1. 令和元年7月22日（月）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」

講 師：ハサン・ムラト・メルジャン（駐日トルコ共和国特命全権大使）

演 題：“Turkish Foreign Policy”（トルコの外交政策）

2. 令和元年9月13日（金）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」

講 師：バシール・モハバット（駐日アフガニスタン・イスラム共和国特命全権大使）

演 題：“The Current Situation of Afghanistan”（アフガニスタンの現状について）

3. 令和元年10月2日（水）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」

講 師：ワリード・シナム（駐日パレスチナ常駐総代表部大使）

演 題：“Palestine - Peace or In Pieces”（パレスチナと“ピース”：平和か分断か）

4. 令和元年 11 月 22 日（金）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」
講 師：モハメッド・エルーミ（チュニジア共和国特命全権大使）
演 題：“The success of democratic elections in Tunisia and the ongoing economic challenges”
（チュニジアにおける民主的選挙の成功と経済的挑戦）

5. 研究員発表会

令和元年 11 月 29 日（金）14:00-15:30 於）日本記者クラブ「会見場」
中東情勢分析発表会「トルコとシリアから見る最近の情勢」

講 師①：金子 真夕（中東調査会研究員）

演 題①：「トルコから見た現状と展望」

講 師②：高岡 豊（中東調査会主席研究員）

演 題②：「シリアの視点から見た現状と展望」

ウ 中東を知るセミナー

ウ-1. 平成 31 年 4 月 24 日（水）14:00-15:30 於）フォーリン・プレスセンター「会見室」

講 師：高岡 豊（中東調査会主席研究員）

演 題：「現代シリアの政情と部族」

ウ-2. 令和元年 5 月 28 日（火）14:00-15:30 於）フォーリン・プレスセンター「会見室」

講 師：高尾 賢一郎（中東調査会研究員）

演 題：「変革かポピュリズムか——宗教国家サウジアラビアの変容」

ウ-3. 令和元年 6 月 28 日（金）14:00-15:30 於）フォーリン・プレスセンター「会見室」

講 師：金谷 美紗（中東調査会研究員）

演 題：「シーシー体制の特徴：軍による統治、政党の弱体化、司法の従属化」

ウ-4. 令和元年 10 月 25 日（火）16:00-18:00 於）札幌国際プラザ

講 師①：浅子 清（中東調査会副理事長）

演 題①：「最近の湾岸情勢と日本」

講 師②：高岡 豊（中東調査会主席研究員）

演 題②：「イスラーム過激派はどこへ行く？」

（札幌国際プラザ・札幌圏大学国際交流フォーラム・中東調査会共催）

ウ-5. 令和元年 12 月 11 日（水）14:00-15:30 於）フォーリン・プレスセンター「会見室」

講 師：青木 健太（中東調査会研究員）

演 題：「アフガニスタン政治の推移、特徴、展望～迷走する 2019 年大統領選挙と和平プロセス～」

表：中東情勢講演会、中東連続講演会、中東を知るセミナー参加者数

項目	日付	講演者	会員	非会員	合計	非会員割合	
ア	1	令和元年6月5日	ネージー・ジャッルール	14	7	21	33%
	2	令和元年6月7日	渡部恒雄、高尾賢一郎、近藤百世	63	20	83	24%
	3	令和元年7月1日	岡浩	68	0	68	0%
	4	令和元年7月3日	大塚聖一	39	0	39	0%
	5	令和元年7月19日	松永泰行	60	20	80	25%
	6	令和元年11月6日	河原一貴	59	17	76	22%
	7	令和元年11月11日	横田貴之	24	7	31	23%
	8	令和2年1月9日	山本忠通	28	23	51	45%
	9	令和2年1月20日	ジャガナート・パンダ、鈴木均、笠井亮平、ティトリ・バス、ファルハード・タギーザード・ヘサーリー、青木健太	47	15	62	24%
	10	令和2年1月31日	八塚正晃	59	12	71	17%
	11	令和2年2月3日	宮島昭夫	46	13	59	22%
	12	令和2年2月7日	辻昭弘	69	13	82	16%
イ	1	令和元年7月22日	ハサン・ムラト・メルジャン	23	17	40	43%
	2	令和元年9月13日	バシール・モハバット	25	20	45	44%
	3	令和元年10月2日	ワリード・シアム	26	10	36	28%
	4	令和元年11月22日	モハメッド・エルーミ	13	5	18	28%
	5	令和元年11月29日	金子真夕、高岡豊	43	10	53	19%
ウ	1	平成31年4月24日	高岡豊	15	7	22	32%
	2	令和元年5月28日	高尾賢一郎	26	4	30	13%
	3	令和元年6月28日	金谷美紗	23	2	25	8%
	4	令和元年10月25日	浅子清、高岡豊	0	42	42	100%
	5	令和元年12月11日	青木健太	27	7	34	21%
			令和元年度合計	797	271	1068	25%
			(参考) 平成30年度合計	1107	360	1467	24%

エ 中東大使を囲む会（意見交換会）

中東に在勤する日本大使が東京で一同に会する機会をとらえて開催しているレセプション形式の会合。法人・個人会員、非会員法人の方々と大使との間の意見交換の場を提供している。法人・個人会員に加え、中東に関連のある非会員の一般法人の役員 740 人に案内を送付した。参加申込者は 160 人、うち非会員 52 人（約 32.5%）。

日 時：令和元年 5 月 15 日（水）12：00～13：30 於）帝国ホテル 孔雀 東の間

参加大使（国名 50 音順）

在アフガニスタン大使館	鈴木 光次	特命全権大使
在アラブ首長国連邦大使館	中島 明彦	特命全権大使
在アルジェリア大使館	小川 和也	特命全権大使
在イエメン大使館	服部 陽二	臨時代理大使
在イスラエル大使館	相星 孝一	特命全権大使
在イラク大使館	橋本 尚文	特命全権大使
在イラン大使館	齊藤 貢	特命全権大使
在エジプト大使館	能化 正樹	特命全権大使
在オマーン大使館	小林 利典	特命全権大使
在カタール大使館	大塚 聖一	特命全権大使
在クウェート大使館	足木 孝	特命全権大使
在サウジアラビア大使館	上村 司	特命全権大使
在シリア大使館	松本 太	臨時代理大使
在チュニジア大使館	清水 信介	特命全権大使
在トルコ大使館	宮島 昭夫	特命全権大使
在バーレーン大使館	伊藤 秀樹	特命全権大使
在モロッコ大使館	花谷 卓治	特命全権大使
在ヨルダン大使館	柳 秀直	特命全権大使
駐ラマツラ出張駐在官事務所	大久保 武	所長
在リビア大使館	松田 恒規	臨時代理大使
在レバノン大使館	山口 又宏	特命全権大使

オ 中東調査会ホームページ

ホームページ（<https://www.meij.or.jp/>）を開設しており、会員のみならず一般にも広く中東関連情報を提供している。令和元年度の年間アクセス数は 44 万 1,165 回。

【収益事業等】 賛助会員向け共益事業

ア トップミーティング（朝食会等）

法人会員の最高幹部レベルならびに特別個人会員を対象とした会合で、国際情勢等に関して外務省幹部他、政府関係者・民間有識者による講演に加え意見交換を行う。

1. 平成31年4月17日（水）8:30-10:00 於)ホテルオークラ
講 師：河野 雅治（日本政府代表）
演 題：「中東情勢を読み解く」
2. 令和元年5月21日（火）11:30-13:00 於)帝国ホテル
講 師：高原 明生（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
演 題：「習近平政権の内政と外交を読み解くカギ」
3. 令和元年5月28日（火）8:30-10:00 於)ホテルオークラ
講 師：小澤 仁（外務省国際情報統括官）
演 題：「外交とインテリジェンス」
4. 令和元年6月19日（水）8:30-10:00 於)ホテルオークラ
講 師：山崎 和之（外務審議官（経済））
演 題：「今後の経済外交」
5. 令和元年7月5日（金）11:30-13:00 於)帝国ホテル
講 師：滝崎 成樹（外務省南部アジア部長）
演 題：「日本の南西アジア外交（特にインドを中心に）」
6. 令和元年7月16日（火）8:30-10:00 於)ホテルオークラ
講 師：後藤 謙次（ジャーナリスト）
演 題：「日本の政局解説」
7. 令和元年9月3日（火）8:30-10:00 於)ホテルオークラ
講 師：岡村 善文（TICAD 担当大使）
演 題：「TICAD7を終えて—これからのアフリカ、期待と展望」
8. 令和元年9月11日（水）11:30-13:00 於)帝国ホテル
講 師：山崎 和之（外務審議官（経済））
演 題：「G7 サミットと今後の対外経済関係について」
9. 令和元年9月13日（金）8:30-10:00 於)ホテルオークラ
講 師：佐々木 聖子（出入国在留管理庁長官）
演 題：「外国人の受入れと共生社会の実現」
10. 令和元年10月2日（水）8:30-10:00 於)ホテルオークラ
講 師：高橋 克彦（外務省中東アフリカ局長）
演 題：「最近の中東情勢」
11. 令和元年11月19日（火）8:30-10:00 於)ホテルオークラ
講 師：木内 登英（野村総合研究所エグゼクティブ・エコノミスト）
演 題：「日本経済の課題と今後の展望」

12. 令和元年 11 月 5 日 (火) 11:30-13:00 於) 帝国ホテル
講 師：正木 靖 (外務省欧州局長)
演 題：「日欧関係の現状と展望」
13. 令和元年 12 月 3 日 (火) 8:30-10:00 於) ホテルオークラ
講 師：山内 昌之 (中東調査会常任理事/東京大学名誉教授)
演 題：「勝者なき戦争—中東最新情勢—」
14. 令和 2 年 1 月 22 日 (水) 11:30-13:00 於) 帝国ホテル
講 師：山田 重夫 (外務省総合外交政策局長)
演 題：「2020 年の世界の展望と日本外交の課題」
15. 令和 2 年 1 月 29 日 (水) 8:30-10:00 於) ホテルオークラ
講 師：秋葉 剛男 (外務事務次官)
演 題：「2020 年の日本外交の展望」
16. 令和 2 年 2 月 18 日 (火) 8:30-10:00 於) ホテルオークラ
講 師：佐々木 伸彦 (日本貿易振興機構 (ジェトロ) 理事長)
演 題：「今後の中国とどう向き合うか」
17. 令和 2 年 3 月 3 日 (火) 11:30-13:00 於) 帝国ホテル
講 師：滝崎 茂樹 (外務省総合アジア大洋州局長)
演 題：「最近の中国情勢と日中関係」
18. 令和 2 年 3 月 11 日 (水) 8:30-10:00 於) ホテルオークラ
講 師：岡部 伸 (産経新聞社論説委員)
演 題：「再度、EU 離脱を選んだイギリスの命運」

イ 「中東トピックス」、「中東分析レポート」等

平成 19 年 11 月に創刊された賛助会員(法人)幹部役員及び特別個人会員に郵送配布している。発行の約 1 週間後に当会ホームページの法人・個人会員限定ページにも掲載している。

発行概要 (平成 31 年 4 月 1 日—令和 2 年 3 月 31 日)

1. 「中東トピックス」

各月の重要事項を中東調査会研究員が分析・評価したレポート。中東に関係する外務省人事及び要人往来も紹介。毎月月初に郵送配布。

平成 31 年 4 月

- ・ アルジェリア：ブーテフリカ大統領辞任、軍主導の新政権移行へ
- ・ イラク：サウジとの協議が活発化
- ・ イラン：周辺各国との協議が活発化
- ・ サウジアラビア：イラン包囲網は堅調か
- ・ トルコ：エルドアン大統領のモスクワ訪問
- ・ パレスチナ：ムハンマド・アシュタイヤ内閣の樹立

令和元年 5 月

- ・ アルジェリア：国民対話の実施へ
- ・ イスラエル：総選挙のやり直し
- ・ イラン：ザリーフ外相の諸国歴訪
- ・ シリア：イドリブ県方面で戦闘激化
- ・ トルコ：イスタンブール市長やり直し選挙の世論調査
- ・ GCC：緊迫する域内情勢とサウジの攻勢

令和元年 6 月

- ・ イラン：JCPOA 維持に係る次官級会合の成果と課題
- ・ エジプト：ムルシー元大統領の死去
- ・ サウジアラビア：米国・イラン関係に期待するものは
- ・ シリア：ムアッリム外相の中国、北朝鮮訪問
- ・ トルコ：イスタンブール市長やりなおし選挙の実施
- ・ パレスチナ：当事者不在の経済会合

令和元年 7 月

- ・ アルジェリア：新政権移行に向けた国民対話の開始
- ・ イエメン：UAE 軍の一部撤退
- ・ イスラエル：外務省の予算不足
- ・ イラン：CIA スパイ 17 人の逮捕発表
- ・ トルコ：安倍首相とエルドアン大統領の会談
- ・ バハレーン：海上安全保障会議の開催を発表

令和元年 8 月

- ・ イラン：英領ジブラルタルがイランの石油タンカーを解放
- ・ サウジアラビア：女性の海外渡航に係る規制緩和
- ・ チュニジア：大統領選挙へ
- ・ トルコ：カタールに新軍事基地を建設
- ・ パレスチナ：全ての大統領顧問解任を決定

令和元年 9 月

- ・ イスラエル：やりなおし選挙と組閣の動き
- ・ イラク：アブドゥルマフディー首相一行の中国訪問
- ・ イラン：米国による経済制裁の継続と今後の展開
- ・ サウジアラビア：石油施設攻撃を経た対米軍事関係
- ・ チュニジア：大統領選挙は決選投票へ
- ・ トルコ：エルドアン大統領、核兵器保有を示唆？

令和元年 10 月

- ・ イラク、レバノン：抗議行動が激化
- ・ イラン：域内の経済関係拡大に向けた動き
- ・ サウジアラビア：観光査証の発給開始
- ・ チュニジア：サイド新大統領の誕生、ナフダ党中心の連立内閣へ
- ・ トルコ：トルコ軍のシリア北東部進軍と米国による経済制裁
- ・ ヨルダン：教員組合のストライキが収束

令和元年 11 月

- ・ アルジェリア：12 月大統領選挙に 5 名が立候補
- ・ イスラエル：「青と白」ガantz代表の組閣が失敗
- ・ イラク：抗議行動が拡大し、連日死傷者が出る
- ・ イラン：ガソリン価格引き上げを受けた抗議デモ発生の原因
- ・ サウジアラビア：アラムコ社の新規株式公開
- ・ トルコ：G20 名古屋外相会合のためチャウシュオール外相訪日

令和元年 12 月

- ・ イスラエル：再々選挙が決定
- ・ イラン：ロウハーニー大統領訪日の成果と課題
- ・ カタール：周辺国との関係改善は一進一退
- ・ トルコ：リビアへのトルコ軍部隊派遣を表明
- ・ リビア：GNA・トルコ軍事海洋合意を巡る地域対立
- ・ レバノン：カルロス・ゴーン氏が日本から密航

令和 2 年 1 月

- ・ アラビア半島：安倍首相のサウジ・UAE・オマーン訪問
- ・ イスラエル・パレスチナ：米国の中東和平案
- ・ イラン：ウクライナ機誤射と反体制デモ
- ・ トルコ：リビアにトルコ軍部隊を派遣
- ・ リビア：ベルリン会議後も続く戦闘
- ・ レバノン：ディヤーブ内閣が発足

令和 2 年 2 月

- ・ イスラエル：スーダンとの関係強化の動き
- ・ イラン：第 11 期国会議員選挙で有権者が「ボイコット」
- ・ シリア・トルコ：イドリブでの戦闘激化
- ・ チュニジア：ファフファーフ内閣成立
- ・ GCC：ザイヤーン-GCC 事務局長の任期終了に向けて

令和 2 年 3 月

- ・ イスラエル：組閣の動き
- ・ イラク：依然として新内閣を組閣できず
- ・ イラン：新型コロナウイルス感染拡大の要因とその影響
- ・ 北アフリカ諸国：新型コロナウイルス感染者数の増加と対策
- ・ サウジアラビア：原油価格下落の背景と影響
- ・ トルコ：国内初の新型コロナウイルス感染者確認と感染者数の激増

2. 「中東分析レポート」(令和元年度発行総数は14号)

中東の特定の問題に関し、外部執筆者または中東調査会研究員が詳細に分析したレポート。随時郵送配布。

平成31年4月10日	食事から見る「イスラーム国」の衰亡 主席研究員 高岡 豊
令和元年7月5日	フーシー派(正式名称:アンサール・アッラー)基礎資料 主席研究員 高岡 豊
令和元年7月25日	思想統制としての「サウジ・ビジョン2030」 研究員 高尾 賢一郎
令和元年8月23日	イラン核合意を巡るイランの強硬姿勢 ～国内的要因を中心とした背景と諸相～ 研究員 青木 健太
令和元年8月29日	アラブ・ボイコットの運用状況 研究員 西館 康平
令和元年10月11日	GCC各国の「ビジョン」 研究員 高尾 賢一郎
令和元年11月27日	2019年 チュニジア大統領・議会選挙 ——非主流派の勝利、続く党派対立 研究員 金谷 美紗
令和2年1月21日	2019年中東情勢の回顧 中東調査会
令和2年2月17日	サウジアラビアの観光政策における課題と展望 研究員 高尾 賢一郎
令和2年2月21日	JCPOAのゆくえ#2: 破綻過程の進展とイランの現況 協力研究員 近藤 百世
令和2年2月21日	ポスト・カーブス体制のオマーンに求められる統治機構改革 協力研究員 村上 拓哉
令和2年3月25日	イラン第11期国会議員選挙の結果とその影響 ——有権者の投票行動に着目して—— 研究員 青木 健太
令和2年3月25日	アフガニスタン和平の現状と展望 ——ターリバーンの軍事・政治認識を中心に—— 研究員 青木 健太
令和2年3月31日	サウジ・ビジョン2030と「女性」 研究員 高尾 賢一郎

3. 「イスラーム過激派モニター」(令和元年度発行部数は17号)

平成30年度より発信形態を「かわら版」から会員専用の「イスラーム過激派モニター」に変更。

平成31年4月12日	ターリバーンが2019年の攻勢開始を宣言
平成31年4月24日	「イスラーム国」がスリランカでの爆破事件について犯行声明を発表する
令和元年6月5日	平穩に終わったラマダーン
令和元年6月14日	オマーン湾での船舶攻撃事件
令和元年7月26日	カブールでの爆破事件
令和元年8月26日	「イスラーム国」による対インド、対中国攻撃扇動
令和元年10月18日	「イスラーム国」、トルコのシリア侵攻に便乗
令和元年10月30日	アブー・バクル・バグダーディーの後継問題
令和元年11月1日	「イスラーム国」が新たな「カリフ」と公式報道官を選任
令和元年11月22日	新カリフへの忠誠表明から見える「イスラーム国」の衰退
令和元年11月26日	EU諸国での「イスラーム国」の広報活動への対策
令和元年12月4日	「イスラーム国」の犯行声明の信頼性が揺らぐ
令和元年12月6日	「イスラーム国」は中村医師殺害事件に反応せず
令和2年1月23日	「イスラーム国」の週刊誌の解析#1
令和2年1月28日	「イスラーム国」の活動が「新段階」に入る??
令和2年2月3日	アラビア半島のアル=カーイダが米国の権益への攻撃を脅迫
令和2年2月20日	「イスラーム国」の週刊誌の解析#2

4. 「中東調査会月間活動誌」

中東調査会の活動を報告する広報誌。中東に関係する外務省人事及び要人往来も紹介。毎月月初に郵送配布。

ウ 「Daily News」の配信

中東の日誌データを、毎月ごとの国別に整理して電子メールにて法人会員に提供している。令和元年度は各国別に月1回発信

エ リビア入国ビザ取得支援

リビアへのビザ申請には、アラビア語使用等特殊な要求がなされ、これを支援してきた経緯があるが、現在リビアは全土に「退避を勧告します。渡航は延期してください。」との外務省海外安全情報が出されている。従って、当調査会としてもビザ取得を支援する環境ではなく、海外安全情報に変更されていない為、平成23年度以降は実施していない。